

北岳—間ノ岳—仙丈岳縦走報告

【山城】 南アルプス北部

【日程】 2017年8月12日～15日

【メンバー】 菊池単独

【行程】

12日 芦安駐車場—広河原—大樺沢ルート—八本歯コルー北岳山荘（泊）

13日 北岳山荘—間ノ岳—三峰山—野呂川越—両俣小屋（泊）

14日 両俣小屋—野呂川越—横川岳—伊那荒倉山—大仙丈ヶ岳—仙丈ヶ岳—馬の背ヒュッテ（泊）

15日 馬の背ヒュッテ—大平山荘—北沢峠—広河原—芦安—帰葉

【目的】

1. 南・北・中央アルプスの主な縦走路は殆ど踏破していたが、唯一残っていた間ノ岳—仙丈岳間を繋げる
2. 縦走路のお花畑を堪能する
3. 両俣小屋・馬の背ヒュッテに泊まりたい



仙丈ヶ岳山頂直下のお花畑から大仙丈ヶ岳を振り返る、間もなく悲願達成

- 本格的に登山を始めて 25 年ほど経過、百名山踏破（2003 年の利尻山で終了）の後、主な縦走路の踏破を目的に、精力的な山行を重ね、有名な縦走路はほぼ踏破していた。唯一残っていた間ノ岳と仙丈ヶ岳間は仙塩尾根、通称馬鹿尾根と言われるロングルート、体力低下を痛感する中で、半ば諦めていたルートである。それでも、なんとかと考え一昨年、ちば山 50 周年記念の山行で北岳～仙丈ヶ岳までの縦走にエントリーしていたが都合が悪くなり不参加。その時に悪天にもかかわらず北岳山荘から仙丈ヶ岳山頂を経て仙丈小屋までの超ロングハードルートを 1 日で踏破したメンバーの頑張りは素晴らしかった。

小生は登山が続けられるように、日頃ランニングによるトレを継続しているが、この縦走に関しては気力的にも無理であると考えていた。今期は心肺機能を保持増進するべく工夫した結果、7 年ぶりに富士山登頂山スキーを実現できたりして、やや自信が回復していた。

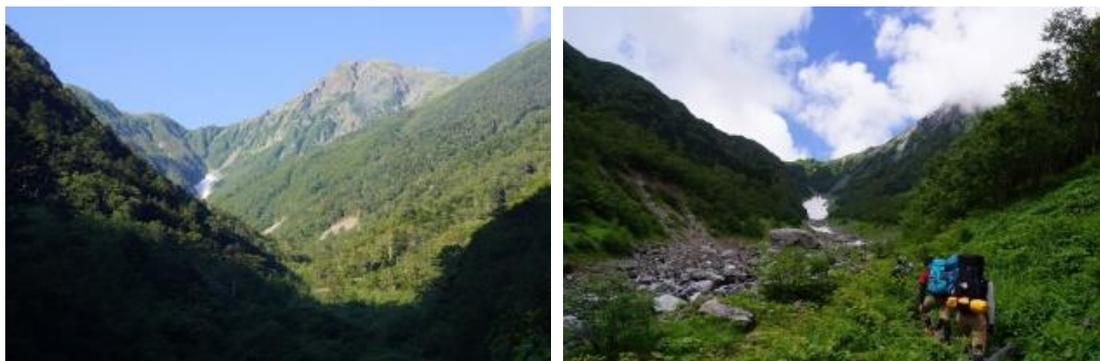
盛夏はアルプスの高嶺に行きたくて、夏休み前半に白馬三山縦走と白馬鍵温泉宿泊を不安定な天候の中で実現させたが、お盆前後に約 1 週間の休暇が取れたため、何とか悲願の間ノ岳一仙丈ヶ岳縦走を実現させるべく、計画を練り始めた。

- この計画の難題は、繁忙期の北岳山小屋泊（布団 1 枚に 3 名ほどの混雑予想）、仙塩尾根のハードロングルート、不安定な天候続き、寝不足での単独運転などなど、出発前はいろいろ思案しながら思い悩む毎日であった。
- 山小屋での混雑回避を目的に山行開始日は 13 日以降が良いと当初考えていたが、不安定な天気続きで、連日数回の山岳天気予報チェックを繰り返し、中止せざるを得ないかと考えてもいたが、山小屋での混雑は我慢し、何とか実現できそうな 12 日スタートとして、北岳と仙丈ヶ岳間は 2 日間に分け両俣小屋で宿泊することにし、予約が必要な馬の背ヒュッテに 14 日宿泊の予約をした。
- 11 日は野球を始めた孫とマリスタジアムでロッテ・西武戦を観戦、車中寝れるよう、マットとシュラフを準備して、船橋を午後 10 時半頃出発した。渋滞予想の最も激しい 11 日であったが既にこの時間では渋滞はない、順調に中央高速を進んだが、かなり眠く初狩 PA で仮眠することにした。3 時間ほど仮眠時間があつたが 1 時間ほどで目が覚めてしまい、このまま芦安駐車場に向かうことにした。高速を降りてコンビニで買い物、3 時半には芦安に到着したが、ガスが掛かって駐車場への道が分かりづらい、パトロールの方に案内され、雨の降るなか第 4 駐車場に到着した。雨とガスでテンションは大幅にダウンしているが、既に準備を済ませ広河原行のバス発着所に向かう若者パーティを見て、出発準備をしてバス停に向かった。真っ暗な 4 時過ぎであるが、乗り合いバス 3 台ほどに既に登山客が乗車しており小生もトップの乗り合いバスに乗車することができた。路線バスより少し早く出発（5：00）、料金は 200 円高い 1200 円であった。

• 1 日目：広河原一北岳山荘

芦安ではガスと小雨模様であったが広河原に近づくにつれて天気は好転、青空が広がり

車窓からは白根三山が見えるようになり広河原に到着した。1日目は時間たっぷり、朝食を食ベトイレを済まし計画書を提出して6:50頃ゆっくりスタートした。いつもの吊り橋の前で北岳の雄姿を望み、テンションをアップさせながら写真撮影し、長い山行のスタートを切った。睡眠不足でもあり焦らずゆっくり歩を進めた。やがて大樺沢沿いの登山道に出るとわずかに残る残雪が望める。登山道脇にはお花がお目見えしてきており、ゆっくり愛でながら二股に向かった。二股には仮設トイレが設置してあり大勢のハイカ



ーが休憩しており、小生もトイレ・行動食休憩を取った。

ここから上部は雪渓脇の夏道である。この登山道では1日目のハイライトというべき、初体験のミヤマハナシノブの大群落に圧倒された。ミヤマハナシノブは以前から一度はお目にかかりたいと思っていたがチャンスはなかった。このルートは夏に2回経験しているが、時期が少しずれていたのか、忘れたのか初対面のようなのである。後立山連峰の清水岳（白馬山の近く）と南アルプス（鳳凰山・北岳）のみに隔離分布する珍しい花である。薄紫の可憐な花が一面に群落形成している。時期がバッチリで非常にラッキーであった。鮮やかなグンナイフウロも混じって豪華なお花畑がしばらく続いて、すっかり上機嫌となった。



雪渓の脇をお花畑を観察しながら登っていくが、雪渓は遠目に見るより以外に大きく急斜面に全長300m余りは続いていた。一部残雪を踏むかどうかの地点もあったが、持参した軽アイゼンは使用しなくて良かった。



雪溪が終了し、間もなく本日の核心部、八本歯のコルにむかう急斜面のハシゴの連続がやってくる。その前にしばし休憩を取り気合を入れてハシゴ地帯に突入した。バッドレスの岩壁を右に見ながら、20では済まない30ほどもあるかハシゴを黙々と登った



待望の八本歯のコルにようやく到着、1993



年の北岳初挑戦の際には、突如ここから迫力の大カールを有す間ノ岳の雄姿が眼前に現れ、度肝を抜かされた記憶がいまだに脳裏に焼き付いている。今回はガスってきて残念ながら視界不良、北岳山荘へのトラバース道分岐部までは岩稜帯の登り、ハシゴもまだいくつかあり、慎重に高度を稼いだ。



視界不良で、左側は切れ落ちた岩壁、いろいろな高山植物が咲いており、ゆっくり楽しみながらの頑張りである。そして南アルプス特有の小生の大好きなタカネビランジも豪華に

咲いた。最後のハシゴを通過する頃から雨が降り出しカッパを着て分岐部に到着した。トラバース道周辺は一面のお花畑で有名であるが、小雨とガスで視界不良、やや緊張する急斜面のトラバース道をゆっくり進むとやがて雨が止み次第に視界も良くなり何とかお花畑を楽しめた。



1993年以来の久しぶりの北岳山荘泊である。一昨年はキタダケソウを目的に6月下旬に肩の小屋に宿泊、今回はお盆の混雑期、どちらに宿泊するか迷ったが、不安定な天気続きで、肩の小屋より混雑する北岳山荘も大分空いていた（一つの布団に一人）。到着時間が早く天気が良ければ、北岳登頂を考えていたが、到着時から再び雨模様となり回復傾向がなく、北岳登頂は割愛した。受付を済ませ、寝るスペースを確保し、早速生ビール、更に350ccのサッポロ黒生を追加し、雨では外で景色を楽しみながらというわけにはいかず、廊下で車座になり隣の単独の方と談笑しながら一日目の終了を祝った。

・2日目：北岳山荘—間ノ岳（3189m）—三峰山（2999m）—野呂川越—両俣小屋

昨日の後半が悪天候で2日目の天気が心配されたが、雨も止み雲が多いながら、何とかなような天気である。2回目の朝食を4:30頃から食べていると、どうやらご来光を楽しめそうな空模様になってきて、慌ててカメラを携え外に出てみた。雲間からご来光を楽しむことができ、出発前にドリップコーヒーをすすりながら、写真撮影のゴールデンタイムを堪能した。農鳥岳方面にカメラを向けると雲が切れてきており、高山の素晴らしい早朝の雰囲気を得た。今日の行程は両俣小屋までの時間的に余裕があるルートである。ゆっくりスタートし、雲が切れ見えてきた北岳山頂を振り返りながら中白根山に向かった。間ノ岳までのルートは2回目であるが前回（2000年に塩見岳—農鳥岳—間ノ岳—八本歯のコル）は逆ルートであった。お花畑を期待したが、この3000mを超す稜線ルートは意外にお花は少なく、次第に青空が広がり雲海上の3000mクラスの山々の景色を楽しみなが



らゆっくり進んだ。中白根山頂で、雲海上に顔を出し始めた仙丈ヶ岳と甲斐駒や、これから向かう間ノ岳一三峰山の稜線と塩見岳を撮影した。



間ノ岳山頂では青空をバックに記念撮影、いよいよ三峰山に向かう未踏の区間に踏み出した。細尾根の岩稜帯を慎重に下って行き、熊の平小屋からの登山道と合流して間もなく、少し登ると三峰山（8：58 到着）がある。ここから仙丈ヶ岳まで7時間20分の行程と標識に書いてある。北岳山荘を出発して約3時間経過していた。極めて遠いなあ！！仙塩尾根、いわゆる馬鹿尾根のスタートである。



細尾根から樹林帯に下り、11：33、標高2310mの野呂川越に到着した。北岳山荘を5：50



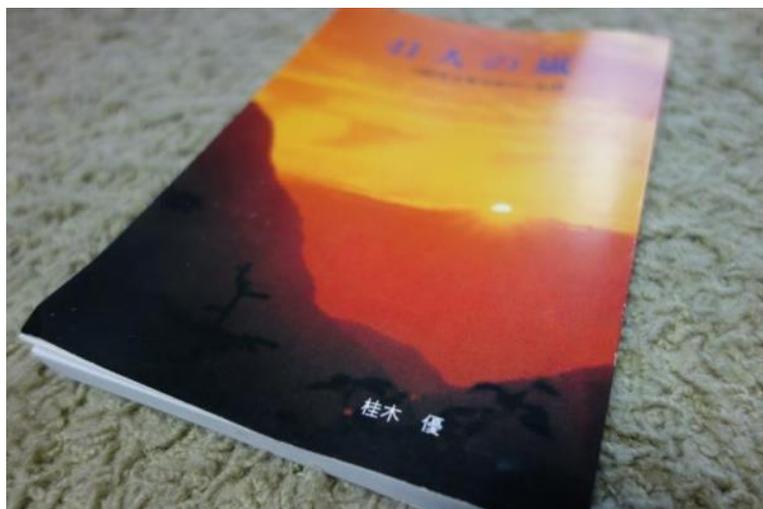
にスタートして5時間50分ほど経過、仙丈ヶ岳まで強行することも頭をよぎったが、遅いスタートと小生の体力では所詮無理な話と諦めた。不安定な天気も心配であった。休憩後、標高2100mの両俣小屋に向かった。

急な登山道を慎重に下り 12:40 小屋に到着、受付を済ませ早速、駆けつけ 350 cc、サッポロ黒生 2 本ですっかり上機嫌となってしまった。夕食は 5 時半から、時間はたっぷり、野呂川の溪流を見たり、小屋で借りた「41 人の嵐」を読んだり、ドリップコーヒーを楽しみながら夕食を待った。「41 人の嵐」は小屋番の H さんが昭和 57 年 8 月 1 日の台風 10 号での被災時の凄まじい記録である。 概要は下記を参考にしてください。



<http://blog.goo.ne.jp/dora0077/e/df7bb277aabc9c341bfec132252b7bd9>

小屋の前にはヤナギランが咲いており、その向こうに昭和 57 年の災害時の時にも流されずに生き残ったドロヤナギの木があります。



宿泊料金は 7700 円と割安、

こんな素晴らしい食事と言うことなし。昨日は 20 人ほどの宿泊者、今日は 12 名程、こじんまりした食堂はこんな感じで雰囲気があり、夕食はハンバーグに天ぷら、野菜もたっぷり、朝食を含め素晴らしい美味しさでした。一度は泊まらなければならないと感じた感動の山小屋でした。



・3日目・4日目：両俣小屋—野呂川越—仙丈ヶ岳—馬の背ヒュッテ（泊）—北沢峠

3日目は何とか雨は降っておらず高曇りである。両俣小屋から野呂川越までは1時間強の登りで急な悪路もある。野呂川越から小さなアップダウンを繰り返し徐々に高度を上げていく、雨の心配はなさそうであり甲斐駒が見えている。林間の目立たない横川岳を通過し北八ッを彷彿とさせる苔むした倒木とシダの林が次から次へと現れる。まだ行きかう人もなく静寂の世界であった。



三角点のある標識が朽ち始めた伊那荒倉山も林の中で視界は効かない。2700mを超してくると、突然マルバダケフキのお花畑が始まった。



この辺の森林限界は2800mほど、ここまでダケカンバがあり、2300m～2400mが森林限界の北アルプスとは様相が大分違う。漸く仙丈ヶ岳山頂と大きな大仙丈沢カールが眼前に現れた。大仙丈ヶ岳山頂付近はガスで覆われている。やがて岩稜帯になってきて、ガスが晴れて大仙丈ヶ岳から仙丈ヶ岳への連なるギザギザの稜線が見える。



休憩をゆっくり取り岩稜帯を進んだ。伊那荒倉山手前から反対方向からの登山者とチラホラすれ違ったり、岩稜帯では後方から追い抜いていく熊ノ平発の若者グループもあった。大仙丈ヶ岳山頂への岩稜帯の登りでは岩にへばりつくいろいろなお花を観察しながら焦らずゆっくり登った。北岳で多く見られたタカネビランジはないのかと目を凝らすと、一株だけやや遠くに発見できたのみであった。大仙丈ヶ岳山頂直下の急斜面のガレ場をトラバース気味に登っていくと、上方から単独の女性が慎重に下ってきた。聞いてみると北沢峠からのこと、テント縦走で今日は両俣小屋まで、「頑張っていますね」と声を掛けた。小生は久しぶりに単独であるが、女性の単独者が以外に多いと感じた。大仙丈ヶ岳の頂上は誰一人いなく展望は効かなかった。仙丈ヶ岳山頂を踏むのは今回で3回目であるが、今までは大仙丈ヶ岳までは足は延ばさなかった。仙丈ヶ岳山山頂への稜線は細く両側、特に左側が切れ落ちた岩稜帯である。お花に癒されながら慎重に進んだ。女性的な仙丈ヶ岳と言われるが、ここは迫力とスリルある男性的エリアである。



次第にガスが晴れてきて仙丈ヶ岳山頂に向かう迫力の細尾根が続いていた。

細い岩稜帯を脱し安全地帯に来ると、仙丈ヶ岳山頂は目と鼻の近さである。豪華なお花畑のお出迎いで興奮状態となってしまった。ウサギギク・ジャコウソウ・チシマギキョウなどなど、仙丈ヶ岳一帯ではここが最も豪華なお花畑であった。大仙丈が岳方面から来ないと分からない地点で、今回の縦走の賜物であったと、一気に気分が良くなった。

振り返ると通過してきた大仙丈ヶ岳から続く迫力の稜線が見えます。やりましたね。仙丈ヶ岳頂上直下のお花畑まで来ました。間もなく間ノ岳から仙丈ヶ岳まで繋がり、縦走完了です。山頂方向の左斜面には圧巻の薄紫の絨毯があり、度肝を抜かれました。自然のチシマギキョウがこれほどの群落を作っているのを見たのは初めてです。烏帽子小屋の前にもチシマギキョウの絨毯がありますがおそらく人工的に増やしたものではないと思います。仙丈ヶ岳山頂には大勢の登山客が見えますが、これを見たのは大仙丈ヶ岳間を歩いた少ない方々であろうと考えると大感動でした。



13:22 ついに仙丈ヶ岳の山頂に立ちました。念願の間ノ岳～仙丈ヶ岳間踏破の瞬間です。smile で記念撮影していただきました。



今日の宿は予約しておいた馬の背ヒュッテです。標識を確認しながら下りましたが、なかなか到着しません。

なんと標高 2630m に位置しており、山頂から標高差約 400m もありました。道を間違えたのではと考え始めたが、カレーの香がほのかに漂ってきて、漸く 14:40 に到着しました。受付を済まし、今日も早速生ビールタイムとしました。宿泊人数は 20 名程で空いております。

一つの布団に一人、今回の山行では3日間ともゆったりスペースで良眠できました。夕食は話題のカレーです。仙丈小屋ではなく馬の背ヒュッテを選んだのはネットで調べてこのカレーを食べたかったからです。最高の美味しさでお変わり自由、小生は1杯半でしたが、3杯以上の若者もいらしたようです。夕食時さらに350cc追加し今日もアルコールの費用がかさみました。夕食後の撮影タイムを期待しましたが、雲の中に甲斐駒の山頂が見えた程度でした。



最終日の朝、ご来光を期待しての5:10朝食、その前に写真撮影と思い外に出てみると今にも降り出しそうな暗い空、ご来光は勿論断念、こんな感じの甲斐駒を撮影できました。下山は大平山荘に向かう沢沿いの初体験ルート、途中から雨模様、右手の斜面には滝が3本あり、ボトムに残雪の残る大滝が最も大きな滝でした。



2時間ほどで大平山荘に到着、緩い登りの車道を15分ほど歩いて北沢峠に到着。9:45発のバスまでかなり時間があり、待合室に入り、麒麟ラガービールで山行終了を祝って一人乾杯した。今回の山行での酒は生ビール2杯、350cc6本で合計6000円ほどになってしまいました。金山沢の温泉で3日間の汚れを落としさっぱりし、甲府昭和インター手前のすき家で牛丼を食べ、高速に乗り、お盆の帰省ラッシュの時期で小仏峠まで19kmの渋滞であったが、5時頃には帰宅できました。